

1 テーマ

ことばの力を高め学びあう児童を目指して

2 研究の内容

(1) 「暗唱」と「話し合いのかたち」の教材開発をする。

国語授業の最初の5分間を使い、「暗唱」と「話し合いのかたち」※を常時間で行う。

(「1 分間スピーチ」「言葉遊び」などは、各学年・各学級で行う。)

※「暗唱」は各部会（または学年）で選ぶ。「話し合いのかたちは」1 回目分をサーバーに入れておくので、手直し・変更をして使う。

※「話し合いのかたち」は、さまざまな話し合い場面を台本にし、グループで役割分担をするなどして読みあう。内容は、教科書の話し合い教材を基本とし、話を広げたり深めたりすることばが入るようにする。〈例〉算数の話し合いの場面、芸術鑑賞、給食中の雑談など

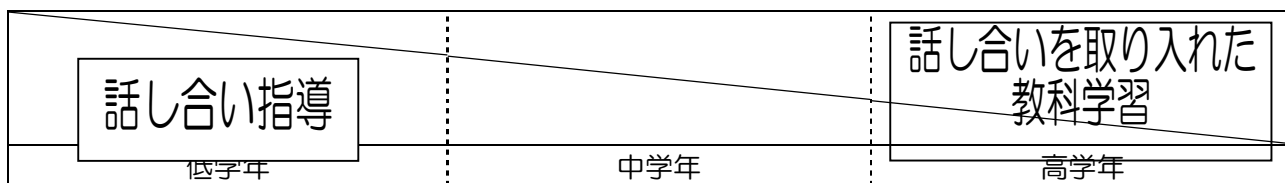
(2) 「ことばの力を高め学びあう授業」の提案をする。

低学年は「話し合い指導」、高学年は「話し合いを取り入れた教科学習」、中学年は、「低学年から高学年へつなげる授業」をテーマに、授業研究を行う。

※(1)で育てた発音やリズム感、話形やパターンを活用・発展させたい。

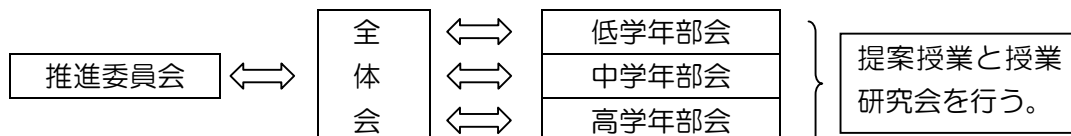
〈授業研究の例〉

- ① 【国語】聞く・話すや話し合いの方法の指導（インタビューや討論会など）
- ② 【学活】国語で学んだ話し合いを生かした学級会での話し合い
- ③ 【音楽】歌詞を大切に歌うための歌詞を理解したり演奏法を考えたりする話し合い
- ④ 【音楽・図工】鑑賞の話し合い
- ⑤ 【算数】多様な解法から最善の（条件にあった）ものを選ぶ話し合い
- ⑥ 【社会・理科】調べ学習を生かしたディスカッション
- ⑦ 【理科】自分の仮説や検証結果などの検討をする話し合い
- ⑧ 【総合的な学習】これからの稲作に関する提案をもとにしたパネルディスカッション
- ⑨ 【国語】物語を話し合いで読み深める



3 研究の実際

(1)組織は次のようにする。



(2)全員が「学校訪問特設」「(部会での) 提案授業」「全体会でのプレゼン※」のいずれか 1 実践を行う。 ※プレゼンは学年で 1 以下。特別支援学級については児童の実態に即した実践を行う。